



表紙 「雪げしき」 2017年12月7日

お念仏も絵を描くことも、まずはやってみる。
するとへたな自分に出遇える。

森 孝之 [東京三組 福成寺門徒]

昭和37年、東京都江東区深川に生まれる。
美術学校や画家に師事することなく水彩による風景画にのめりこむ。
以来30年あまり水彩画の奥深さにとりつかれ現在にいたる。
公募展に出展することもなく、現場で描く事を楽しんでいる。

もくじ

- 03 新年挨拶 藤田 哲史
-

特集

- 04 仏教青年会とは
-

- 09 法語ポスター
-

教区教化通信 総合調整総務会

- 10 教区報恩講 企画会だより
-

教区教化通信 東京教区教区門徒会

- 12 教区門徒会員研修会 粟生 剛
-

教区教化通信 「同和」協議会

教学者は「是旃陀羅」問題に

- 13 己の血を流せ！② 岩寄 徹
-

教区教化通信 教学館

- 14 私の出遇った言葉 小林 彩
-

はい！こちら真宗会館です

- 16 駐在日記 渡邊 誉
-

はい！こちら真宗会館です

- 17 所員のつぶやき 白川 亮
-

- 19 敬弔・涌 平松 正宣
-

2020年 新年のご挨拶

東京教務所長 藤田 哲史



慶讃事業テーマ

南無阿弥陀仏

人と生まれたことの意味をたずねていこう

新たな年を迎え、東京教区内の皆さま方に新年のお慶びを申し上げます。

昨年はお国においては「平成」から「令和」へと元号が改まりました。宗門にとりましては、2023年にお迎えする宗祖親鸞聖人御誕生850年・立教開宗800年慶讃法要に向けて、4カ年度の慶讃事業がスタートする「慶讃元年」と位置付けられた大切な年でありました。

りました。

しかしながら、東京教区においては台風15号、台風19号などの度重なる自然災害によって、栃木県、千葉県、茨城県、長野県などの教区内各所に甚大な被害がもたらされた年でもありました。幾人かのご門徒の尊い生命が奪われ、また多くの方々が避難所での生活を余儀なくされるなど、いまだに復興の道筋が見えないような状況にあります。さらに、台風19号では、まるで津波に襲われた如くに本堂の天井近くにまで濁流が浸水し、極めて深刻な被害を受けたご寺院もございました。

ここにあらためて被災されましたご寺院・ご門徒に衷心よりお見舞いを申し上げますとともに、一日も早い復興を申し上げます。宗門・教区といたしましても、かけがえのない聞法道場である真宗寺院の復興に、できる限りの対応をしまいたいと存じております。さて、小職として初めて迎えた2019年度も、早くも上半期を終えました。特に20

19年度は、冒頭に記しました「慶讃事業」スタートの年に当たりますことから、「東京教区慶讃事業検討会議」を設置させていただきました。鋭意、教区としての慶讃事業総計画の骨子案作成に取り組んでいただいているところであります。この検討会議からの答申書を得て、できる限り早い時期に、教区としての慶讃事業を推進する体制を整え、実働を始めてまいりたいと考えております。

なお、当初10月25日に予定しておりました「内局懇談」は、台風被害の影響に鑑み、延期とさせていただきますが、その他の教区の諸事業についてはおおむね順調に実施できております。特に、今年度から再開いたしました「教区推進員養成講座」に関しましては、来年度からの実施組がすでに内定しておりますし、他にもいくつかの組において実施に向けて前向きな議論・検討をいただいていることは、心強い限りであります。

今後は、教区報恩講、教区同朋大会などの教化事業、そして教区・組の教化委員会の諸研修などを計画通りに実施される中で、教区内一人ひとりが宗祖親鸞聖人の御誕生と立教開宗の意義を問いたずねていただけることを念じまして新年のご挨拶いたします。合掌



10月号(351号)特集「青少年部門」の取材の中で、青少年部門が長く課題にしていた若者教化の形として、仏教青年会(以下、仏青)があることを知り、今月はこれを調べ報告したいと思います。

今から63年ほど前(1956年)『宗門白書』には「寺院には青年の参詣は少なく、徒

つて青壮年との溝は日に日に深められてきているではないか」という言葉があった。

いま寺を支えている中心である高齢者層が当時の青年であったのだから、いまだ青年が寺に来ていなくても、いつか彼らも老年になり仏縁が開ければ何とかなると、人口減少と超高齢化が迫る現代において樂觀できるだろうか。

青年という時期は、社会の中で様々な体験を通して、他者と衝突し、矛盾を抱え、ジレンマに苦しみ悩む時期。仕事や公のことで同僚や仲間と話す機会はあっても、自分自身のことを語ることや聞く事が出来る場所や関係は少ない。

にもかかわらず、青年に対するお寺の教化の現状をみると、宗門白書で「青年の参詣は少なく」と言われて久しい現実がある。中高年の参詣者が親世代を亡くすまでお寺に縁がなかったと語るのには座談の自己紹介の定番である。だから青年は教化の空白世代とも言える。その青年に直接向き合い、共に聞法していこうという動きが仏青である。



仏青とは

まず青年への教化を考えると出てくるのが仏青である。この「仏青」という言葉には二つの意味があり、一つには「仏教青年」の略称で、仏教に自らの生きる道を聞き学び、仏道を歩もうとする青年のことをいう。二つには、仏道に自らの生きる道を学ぶ青年たちの僧伽「仏教青年会」を指す。この「仏教青年会」も大きく分けると「教区仏青」と「単位仏青」の二つがある。「教区仏青」は教区を一つの区分として青年が集い組織される。「単位仏青」とは寺院や寺院に限らず仏教を聞いていこうとする青年が集うことで組織される。

東京教区には教区仏青はないが、他教区では東日本大震災におけるボランティア活動の母体として活躍している仏青もある。宗派には真宗大谷派仏教青年同盟(仏青同盟)があり、「ふたりからはじめる仏青」という願いのもと、「仏青づくり研修」を開催。機関誌『親鸞の道を歩まん』の発行や仏青シミュレーション、仏青同盟大会などを行っている。東京教区からも仏青同盟に若手が何人も参加している。



親鸞聖人御誕生850年・立教開宗800年・真宗教団連合結成50周年記念事業として、「ごえんさんエキスポ」が開催されました。全国各地で様々な活動に取り組み、まわっている浄土真宗各派のお寺、僧侶、団体が一堂に集まり、各活動の紹介や参加呼びかけを行いました。

当日は28のブースが設けられ、宗派や教区が主体のところもあれば、有志僧侶による団体やご門徒さんの団体、また寺族とご門徒さんで活動しているところなど様々でした。とくにユニークなものとしては、お寺でレトル

トカレーを作っている「レトルトカレー寺」や、「死」について語れる「デスカフェ」、門徒さんによる早朝お寺掃除「テンプルモーニング」などがあり、非常に刺激を受けました。大谷派寺院からは茨城1組雲國寺様が「ウンコックジ」と朋に生きるなま」というブースを出展し、お寺のゆるキャラ「ウンコックジ」とともに手作りの小物や着物のリメイク作品を展示しつつ活動紹介をされていました。お寺のゆるキャラという発想に多くの方が関心を寄せていました。

宗派からは青小幼年センターと東本願寺出版、そして仏教青年同盟が出展しました。私が所属する仏青同盟では写真展示とリーフレット配布、そして仏青同盟オリジナルグッズである髑髏念珠とトートバックの販売を通して活動内容の紹介を行いました。髑髏念珠はネーミングのインパクトから興味を持ってくださる人も多く、仏青同盟が髑髏念珠を通して伝えたい「つながり」「いっしょ」ということのお話をさせていただくなどの交流もありました。

今回、普段出会うことの少ない他派の僧侶やご門徒さんたちと交流ができ、各地の若手僧侶やご門徒さんが試行錯誤しながらも楽し

んで活動している様子が伝わってきました。とくに早朝のお寺掃除のブースを出展していたご門徒さんが「自分たちはお寺が好きで活動している。そのことをたくさんのお寺さんに知ってほしい」と話していたことは非常に印象的でした。僧侶、ご門徒という立場を超えて、ともに集える場所があることがとても嬉しく、また心強く感じました。

仏青同盟では2020年に茨城県水戸市の報佛寺（茨城2組）にて「仏青づくり研修会」が茨城」を開催します。日常の立場を超えて誰もが集まれる場所が仏青です。みなさまのご参加をお待ちしております。「詳細は本号7ページをご覧ください」

（報告 茨城2組報佛寺 河和田唯章）



大谷派仏青同盟のブース



青仏寺玄徳組5東京

髑髏会

私たちは東京5組徳玄寺の単位仏青「髑髏会」取材。住職の坪内秀樹さんにお話を聞いた。



髑髏会を始めるきっかけ

全国青少年教化協議会(仏教精神に基づき、国内外における子どもたちの健やかな育成と家庭支援を目指す超宗派の団体)に勤めていた頃、子ども会を開催する事業があり、企画の段階から関わるスタッフを他宗派や大学の児童系サークルなどから募る運びとなりました。企画検討のために10名ほどで毎月会議をしたのですが、その場に参加する学生たちがとても楽しそうでした。宗派を超えてお釈迦様やそれぞれの仏教観を語り合いながら子ども会の企画検討をすすめました。そんなつながりがあったて、大谷派の池之平青少年センターなどでも子ども会を開催したのですが、子ども会事業の点検も含め、一旦子ども会を中止することになりました。すると、スタッフの学生たちが「この場で子ども会や仏教の話をしたことがすごく楽しかったし、ここで話したような話は学校ではできないので、今後話が出ることを続けられないでしょうか」

と言ってくれたことがきっかけでした。それでは私のところのお寺で続けようということになりました。会を始めると人が人を呼び、知り合いが知り合いを誘って連れてくるようになりました。ですから参加対象が初めから自坊の門徒さんでも地域の人もないわけです。はじまったキッカケは「自分が旗をふつて」というわけではなく、子ども会できたご縁に引っ張ってもらった感じです。



会の名前について

会の名称の髑髏とは一般には頭蓋骨のことですが、外見の性別や人種、思想を超えて出あつていくことを願っています。もともとこの会が宗派を超えてはじまったので、宗派が違っても積尊の教えに根本的に違いはないということを思い名づけました。

人と向き合い、立場を超えて、自由に真摯に語り合う。そして仏教にさまざまな問いを尋ねていく。そういう関係性を目指しています。



会の日程はどのようなものですか

19時	本堂にてお勤め 全員から感話
22時	その後、発題とそれを受けて座談 閉会。最後に全員が感想
23時	終了

髑髏会のメイン活動は座談会です。参加者は20代から50代の仏教に関心のある社会人の方です。参加資格は人の話を聞くことと論破（論理的に他者を言い負かすこと）を目的にしないことにしています。

はじめに本堂にてお勤めをします。お勤めは当番制で担当の方の宗旨の日常のお勤めをし、（取材時は当番が曹洞宗の方でしたので『般若心経』でした）お勤めの後に全員で感話をします。いつもの参加者は5〜6人なので20分くらい感話しています。そのあと事前に決めた人が発題をします。発題は宗教や社会問題などについて自分の考えや疑問に思っていることを話してもらいます。その後、発題を受けて座談となります。（取材時は簡単な自己紹介が入りました）休憩時間は特にとおらず、各自がトイレなどで適宜中座しま

す。あとは延々と座談です。10時を目途に参加者全員から今回の感想をいただき、散会は11時頃になります。

今回の日程調整は、当日の参加者で最後に行い、この時に次回のお勤めと発題の当番を決めます。次回の案内は希望者にメールやSNSサービスのLINEを利用して発信しています。



これまでどんな発題がありましたか

自殺・個人の宗教と家の宗教・なぜ若者はカルトに惹かれるのか・宗教戦争・仏教の好きなどところ・「南無」とは・在家と仏教・本尊・クローン・供養・子育て、など。



取材をとおして

昭和48年4月1日に本願寺出版で発行された『青年教化の手引き』には「仏青（会）が突然見事に誕生することはおよそ考えられない。会の発足以前に発足の種子が必要であろう」と書いてありますが、徳玄寺さんを取材する前に今月号5ページで取り上げている「こえんさんエキスポ」築地本願寺」の記事

をいただいた茨城2組報佛寺の河和田唯章さんにいろいろとお話をいただいたことを思い出しました。報佛寺さんでも仏青を隔月で開催されているそうです。仏青研修などで聞いてから、やりたなと思つて6〜7年。あるご法事で仏教の質問をされたことをキッカケにはじまったそうです。

外からくる小さなキッカケの種子をどう拾つて育てていくか、出遇つた出来事をいただくところにスタートがあるのだと感じました。

（取材 朝倉 俊隆）



髑髏会：全員感話



真宗大谷派 仏教青年同盟 主催
仏青づくり研修会 in 茨城

「いぐべよ！」

開催日時 2020年3月3日(火)午後～4日(水)午前
場所 茨城2組 報佛寺 (茨城県水戸市)
講師 池田 徹氏 (三重教区桑名組西恩寺住職)
宿泊場所 コートホテル水戸
参加費 宿泊あり10,000円 宿泊なし4,000円
内容 講義・座談・パネルディスカッション
オプション 日程終了後、ご旧跡参詣を予定。

応募先 青少幼年センター
〒600-8164 京都市下京区諏訪町通り六条下る上柳町199 しんらん交流館内
電話 075-354-3440 Email oyc@higashihonganji.or.jp

本山の慶讃事業 若者教化立ち上げ応援プロジェクト

—若者の集まりをはじめたい。あなたの思いを全力で応援します！—

対象 寺院、組、有志の会 (真宗大谷派僧侶・門徒によるもの)
募集 10 会所

※本プロジェクトは2019年度～2021年度の3ヵ年度実施します。
2020年度以降の募集はその都度お知らせします。

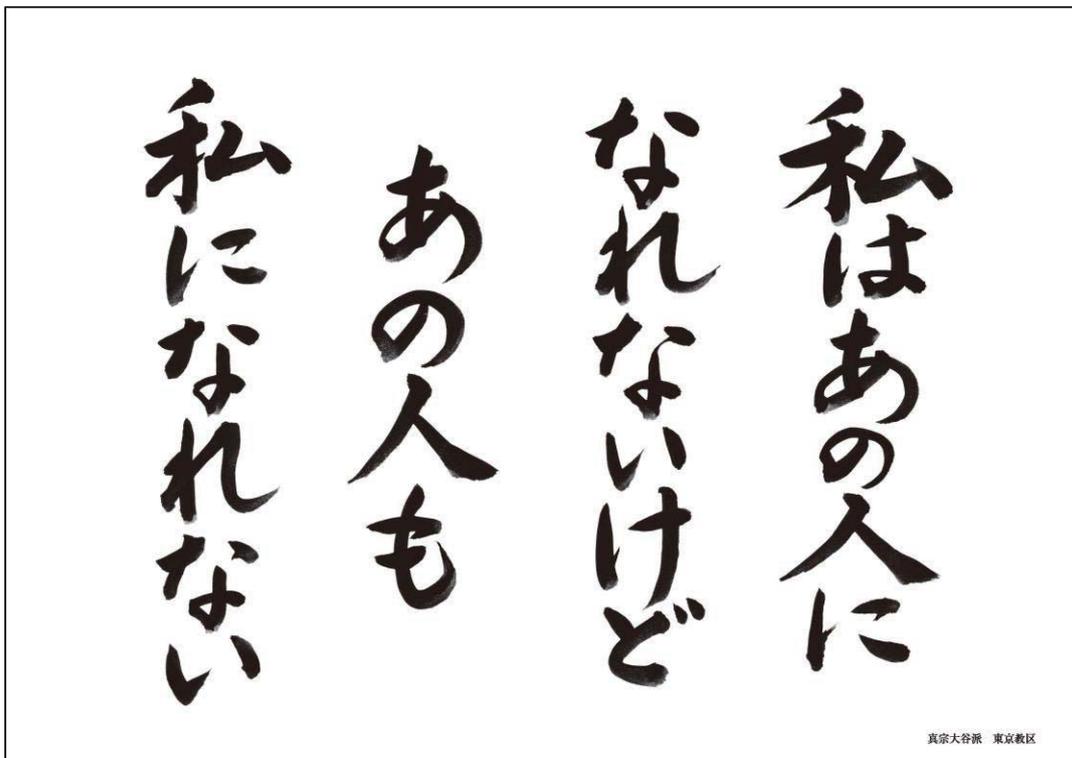
内容 ①必要に応じて、寺院活性化支援員が事前相談に伺い、状況に合わせたプラン作りを行います。(事前相談に係る寺院活性化支援員派遣費用は、企画調整局にて負担します)
②事業の講師・スタッフ等の経費を補助します。
(一会所 上限55,000円)

応募先 青少幼年センター
〒600-8164 京都市下京区諏訪町通り六条下る上柳町199 しんらん交流館内
電話 075-354-3440 Email oyc@higashihonganji.or.jp

青少幼年センターのホームページ <http://www.higashihonganji.or.jp/oyc/>
には～寺院における若者(青年)教化Q&A～もあります。ホームページQRコード→



今月の法語



- ・頒布中「掲示伝道用ポスター」(A2 サイズ)
「掲示伝道ポスターミニ」(ポストカードサイズ)
- ・「掲示伝道用ポスター」が貼れる門徒宅用掲示板を無償設置いたします。
詳細は東京教務所まで。

教区教化通信 総合調整総務会

教区報恩講 企画会だより

前号に引き続き、報恩講企画会メンバーより頂いた抱負を紹介いたします。

2020教区報恩講 テーマ「今、いのちがあなたを生きさせている」
サブテーマ

「人にであう 教えにであう 自分にであう」



稲垣 和弘（東京1組 通覚寺）

この度、教区報恩講企画会に携わらせていただくことになりました。

私自身、教区報恩講にはこれまでスタッフとして関わってきました。また自坊でも毎年報恩講をお勤めしてきました。そして「宗祖

親鸞聖人の報恩講は、真宗門徒にとって最も大切な御仏事である」と教えられてきましたが、報恩講は大切なものだから関わろうとか勤めようと思いついたわけではなく、報恩講というものが既にあつて、その報恩講へ様々な形でのお勧めやお誘いがあり、いわば流されるように関わってきたのかもしれませんが。

そんな私が企画会に加わることになったという事は、改めて報恩講とは何かを問いかけられているように思います。報恩講にはどのような願いが込められ、今まで伝えられてきているのかを問いかけられ、教区の方々と共に確かめる機会をいただいたことと受け止めています。そして、報恩講も年々参詣の方が減っているのが現状かもしれませんが、現

代を生きる人々が抱えている苦悩に出あう時、親鸞聖人の教えの力、可能性、魅力を感じる事がありません。私も含めた現代を生きる人が、親鸞聖人のお念仏の教えと出あう場となるよう、ご一緒に報恩講をお勤めいたしましよう。



原 知克（東京5組 成満寺門徒）

この度、教区報恩講企画会委員を仰せつかりました。現在、東京5組の活動として門徒会の常任委員を承っておりますが、今回お声掛けをいただき、1都8県にまたがる東京教区でのお手伝いということで、身の引き締まる思いであります。

さて、真宗の教えには全く疎かった私ですが、愛する家族との別れをきっかけに、手次

寺のご住職から教えを通して自分の心を見つめる力、回復していく力をいただきました。そんな中で、門徒会の活動にも参加をさせていただき、沢山の気づき、朋友との出会いがありました。

また、東京5組同朋会を年3回開催させていただいての感想は、参加者の高齢化や減少ということでした。今、世間でささやかれているお寺の実情は「墓じまい」、「寺離れ」などですが、「本当に繋がっているんだ」というのが実感でした。

同朋会終了後に寺族・役員で懇親をしながら話しをするうちに、不安の解消は「千回のお経よりも行動だよ!」とのアドバイスに励まされ、「動きながら・失敗しながら学ぶ」それだよ!というところで、門徒会で何かできることはないか?と思案を巡らせています。

折しも、昨年3月で40年間のサラリーマン生活に終止符を打ち、お寺に通える時間も増えました。

お寺活動にはまだまだ不慣れではありますが、仕事の経験や日常の生活者としての眼で見た思いなどを通して、企画に関わって行けたらと思っております。3年間どうぞよろしくお願いたします。

おみがき

東京教区報恩講を清々しくお迎えするにあたり、左記の日程で仏具のおみがき・清掃を実施いたします。ひとりでも多くの方のご参加をお待ちしております。

【日程】

1月19日(日)

10時 日曜礼拝

11時半 昼食

12時半 おみがき

お話 坪内秀樹氏

(報恩講企画会チーフ)

15時 閉会

【場所】

東本願寺「真宗会館」

※昼食を「用意いたしますので、事前にお申し込みくださいますようお願いいたします。詳しくは先月発送のチラシを「ご覧ください。問い合わせ先 (東京教務所 担当:浮葉)

電話03・5393・0810

仏華立て

教区報恩講に向け、仏華立ての様子を期間中どなたでも自由にご覧いただけますので、真宗門徒が大切にしてきたお荘厳がどのように準備されるのか、この機会にぜひ「見学ください。

なお、本年度の仏華立ては石川真樹さん(茨城1組福法寺) にお願しております。

【日程】

1月23日(木)

10時~17時 下準備

(花の剪定 木づくりなど)

1月24日(金)

10時~16時 内陣用仏華立て

【場所】

東本願寺「真宗会館」

※作業の日程・内容は大きく変更される場合(一日で作業が終わる可能性あり)があります。必ず事前に東京教務所(担当:浮葉)までお問い合わせください。

電話03・5393・0810

教区教化通信 東京教区教区門徒会

教区門徒会員研修会

2019年11月6～7日

高田教区（赤倉ホテル・居多ヶ浜・光源寺・高田別院）



▲今泉温資氏による講義の様子

2019年11月6～7日の1泊2日で、親鸞聖人ゆかりの地が多くある高田教区内において、「教区門徒会員研修会」を開催し、会員24名が参加した。
ご講師をお願いした今泉温資氏（三条教区

願浄寺）のお勧めにより、赤倉ホテルにおいて営まれる報恩講「有縁講」へ参加した。

「有縁講」は、東西本願寺の真宗門徒が多く参加し、約1カ月ホテルを開放し開催されているが、今回の研修会がその初日にあたり、ホテルに到着した際は、いよいよ「有縁講」が始まっていくという活気と慌たしさを感じられた。

また、「有縁講」の特徴として、東西本願寺の勤行が交互に勤められ、夕事勤行では本願寺派の様式で行われたため、大谷派の参加者は節が異なるお勤めに苦労が見られたが、大きな声がホテル内に響き渡っていた。

今泉氏の法話では、地元である新潟県における親鸞聖人の伝承やご門徒とのやりとりに触れ、「AさんもBさんもCさんもDさんも皆爺（G）さんになる」と、ユーモアを交えながら生老病死などについてお話しいただいた。

2日目は現地研修として、貸切バスにて居多ヶ浜・光源寺・高田別院を参拝し、それぞれの地で親鸞聖人の足跡に触れた。

来年度の研修会は、教区門徒会員の任期3年目（最終年度）となるため、本山での研修を予定している。

（東京教務所主事 栗生剛）



於：居多ヶ浜

教学者は「是旃陀羅」問題に己の血を流せ！②

「同和」協議会会長 岩崎 徹

〈12月号の続き(全5回)〉

曾我師の場合、講義中に、聴講者に「より解りやすく」説明するために(つまり、聴衆が部落差別観を持っているという領解が無意識的に曾我師には存在している)、曾我師に内在する差別観が吐露されたものであり、曾我師の思想(この場合は「信心」と言ってもよいと考える)が曾我師自身に内在する差別観を相対化し、コントロールすることが出来なかつた訳である。それならば、内在する差別観を相対化し得ない信心とは何かということになるが、曾我師の「異なることを歎く」には、「機の深信が欠けておつた」と信心そのものの問題が表明されている。

しかしながら、ここで明らかにしておかなくてはならない問題がある。それは、何故「機の深信が欠け」たのか、という問題については一言も言及されておらず、部落差別と信心そのものの思想的究明が中途半端なものとなっている。これはある意味で、曾我師の信心

や思想性の曖昧性を何よりも表していることだと私は考える。

曾我師がこの信心や思想性の曖昧さを自らの課題としたとき、部落差別克服の教学の構築が可能であったことを考えると、直後の曾我師の命終は非常に残念なことだと思ふ。今は亡き藤元正樹師が、「曾我先生の差別発言がきっかけとなって、教学派と社会派が初めて一つになる機会が生まれたが、先生が没したため叶わなくなった」(筆者の記憶)と言われたことを思い出す。いずれにしても、「是旃陀羅」問題を論考した教学者は藤元師、西田師のお二人しか存在していないのである。問題は、それでは他の教学者達は一体何をしていたのかということになる。大谷大学で真宗学を専攻している先生、大学の研究室で論考をしている大学院生、教学研究所の所長、所員、研究員、そして親鸞仏教センターの所長、研究員、それらの学事機関に籍を置く方々は一体何をしていたのだろうか。

曾我師が考え続けることが出来なかつた思想的課題には全く関心が無く、専ら親鸞の言葉と他の祖師の言葉を切ったり、貼ったりしながら、自己満足の論文作成に汗を流していたのではないのか。それらに人々の中から、部落問題に関する取り組みの痕跡が、全く見えて来ない現実を考える時、そんな皮肉を言いたくなるのは私だけだろうか。

勿論、私たちの周辺には多くの問題があり、部落問題もその一つであることは間違いない。そういう意味で学事機関に籍を置く者の中に、部落問題がその視座には入っていないものが殆どだと思ふ。

しかしながら良く考えて欲しい。親鸞が『教行信証』後序において、「主上臣下、法に背き義に違し、忿を成し怨を結ぶ。これに因つて、真宗興隆の大祖源空法師、ならびに門徒数輩罪科を考えず、猥りがわしく死罪に坐す。あるいは僧儀を改めて姓名を賜うて、遠流に処す。予はその一なり。しかればすでに僧にあらず俗にあらず。このゆえに「禿」の字をもつて姓とす」(『聖教電子化研究会』より)と言われる「禿」の字をもつて姓とすの「禿」は、一体何を表す言葉であるのか。

〈3月号へ続く〉

教区教化通信 教学館

私が出遇った言葉

茨城1組 雲國寺 小林彩



『親鸞様は懐かしい』

「家族とのきずな」 「入所前の生活」
 「人生の選択権」 「社会との共生」
 これらの言葉は、国立ハンセン病資料館の中

に、「取り戻せていないもの」として展示されていた。不条理な現実がここにあった。人として生まれ、当たり前前に生き過ごしていったことが、ここでは当たり前ではなかった。恥ずかしながら、私は今回初めて療養所を訪れた。ハンセン病に対して行われた政策を知りつつも、いざその場に身をおいて現実を直視すると、悲しさ、虚しさ、やるせなさ、そして、人の悍ましき、恐怖心を感じた。日本という同じ国の土壌にいなながらも、隔離された小さな国が出来上がっていた悲しい現実を目の当たりにすると、言葉が出なかつた。

今回は、国立ハンセン病療養所の一つ、国立療養所多磨全生園の園内において勤められ

た、真宗報恩会の報恩講に参詣させていた。いた。その際、『親鸞様は懐かしい』という歌をみんなで唱和した。

かぜもないのに ほろほろと
 だいちのうえに かえりゆく
 はなをみつめて なみだした
 しんらんさまは なつかしい
 よはのあらしに はなはちる
 ひともむじょうの かぜにちる
 はかないうきよに なみだした
 しんらんさまは なつかしい

え続けてこられたからこそ、今もなお報恩講で大切に歌われているのだと思うと、感慨深いものがある。さまざまな因縁が絡み合っている世の中で、不条理と思われる現実を受け入れられたのも、それらを超えた阿弥陀の世界に出遇われ、存在の平等性、いのちの尊さを願われた人たちがここにおられ続けたからだと感じた。

第8期教学館が始まり、約1年が経過した。西田先生のご講義は、一字一句を丁寧に、何度も繰り返しながら、親鸞聖人に尋ねるかのように深く読み問われている。果たして、私は親鸞聖人に出遇っているのだろうか。私は、まだ縫物の返し縫いをするかのように、表面上に書かれている文字を読んで、親鸞聖人という人物を想像し作り出しているだけかもしれない・・・改めて、真宗門徒としての生活、そして親鸞聖人との向き合い方を問い直された一日だった。

第11回 教学館月例研修会
 2019年11月13日～14日
 基調講義…真宗原論
 ・阿弥陀佛と知の被限定性の臨
 界点に立ちての私論・
 西田 眞因氏（元教学研究所所長）
 特別講義…多磨全生園報恩講（現地学習）

このたび、東京教区の「掲示伝道ポスター」作成にあたり、広く掲示用の言葉を募集いたします。

つきましては、教区の皆様に対し、普段の生活を通して心に残る言葉がございましたら、是非、ご紹介賜りたく募集いたします。

「掲示伝道ポスター」 言葉を大募集

言葉で迷い
言葉で傷つき
同時に言葉で
目覚める

募集要項

概要：応募いただいた言葉の中から東京教区教化委員会・広報出版部門で法語ポスターとして選定させていただきます。（選定されない場合があることをあらかじめご容赦願います）

募集：所定の用紙でFAX、郵送にてご応募ください

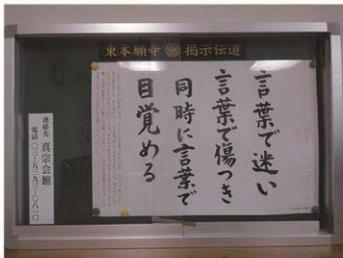
締切：2020年1月31（金）

※ご不明な点は東京教務所 TEL03-5393-0810
 （担当：佐々木・大橋）まで

「門徒宅用伝道掲示板」設置の募集

東本願寺 掲示伝道

・掲示板サイズ
 高さ58cm
 幅87cm
 重さ約10kg



- ① 内容
 ① 教区教化委員会発行の法語ポスターや同朋大会等のポスターを掲示していただきます。
 （掲示物は教区から送らせていただきます）
- ② 掲示板は無償で設置いたします。
 （教区が全額負担）
- ③ お申し込み、お問い合わせは東京教務所（担当：栗生）までご連絡ください。

・ご自宅の塀等をお貸しいただけるご門徒を募集いたしますので、ご協力賜りますようお願い申し上げます。

はい！こちら真宗会館です

駐	在
日	記



駐在からひとこと
富岡畦草記録の目シリーズ
『変貌する都市の記録』
著者；富岡畦草、富岡三智子、鵜澤碧美

東京教区駐在教導
渡邊 誉

先日とある地方都市に用事がありホテルに宿泊した。一日目の用事が終わりホテルにチェックインの手続きをするため、フロントに行くと「当ホテルのチェックイン時間は一時間後です」と言われた。これは困った一時間どう費やそうかといろいろ考えた。そのままこの場に残り備え付けのソファに座り、新聞でも読もうかとも考えたが、喉も乾いていたのでどこか飲み物を提供してくれるお店で時間を費やそうと表通りに出た。

歩けど歩けど目的のお店は現れず、どうしたものかとフラフラしながら歩き続けた。表通りから一本路地に入ったところに目的のお店があった。

最近はあまり見かけなくなった昭和感あふれた“純喫茶”が佇んでいた。

カランコロンとドアの上に取り付けであるカウベルの音が響き、懐かしさを誘った。

すでにお客さんがグループで何組か

いて半分以上の席を埋めていた。音楽は静かにイージーリスニングが流れていた。キョロキョロと店内を見回しながらいた私にウエイトレスが「いらっしゃいませ、後ほどご注文をお伺いいたします」と言ってグラスに注いだお水をテーブルにおいてくれた。近年ファストフードに見られるようにオープンカフェと称したお店が多く、注文の仕方、席の確保で戸惑う私などは入店を躊躇してしまうことが多い。

その点、このお店は従来どおり席を案内され、注文を聞かれるタイプのお店で安心した。さて、注文したコーヒーが来るまで、あ、先ほどホテルに預けた荷物の中にスマホを入れてしまい手元に財布しかない。店内の新聞、雑誌を探す、無い。しまった、どこに目線をやったらいいのか。すっかりスマホ依存度の高い自分を知らされた。出てきたコーヒーを飲みながらお店の壁の一点だけをしばらく見続けた。

はい！こちら真宗会館です



東京教務所
教区雇員
白川 亮



担当：教区教化委員会事務、教区坊守会、
准堂衆会、雅楽会、
多磨全生園・栗生楽泉園等の施設教化など。

好きな言葉：「あんた、男の、どこらへん？」
(矢沢永吉)

この記事を読んでいただいている皆様の携帯は、スマートフォンだろうか。

最近、スマートフォン一つあれば、何でもできる時代になってきた。『NW9』の11月号でも編集委員さんが「キャッシュレス」についての記事を書いていたが、本当に現金のいらなくなった時代になってきた。

私は以前、インターネットの広告代理店に勤務していたのだが、よく上司と一緒にお昼を食べながら、今後どういビジネスが成功するかという話をしてきた。その時、冗談で「お金なんてなくなるかもね」と笑って話をしてきたが、いよいよ現実味をおびてきた。

寺院関連で「キャッシュレス」と言えば、やはり気になるのが「お布施のキャッシュレス化」である。

先日、お寺のキャッシュレス決済に京都仏教会が反対声明を出したとのニュースがあった。もちろん私が所属している寺院でも、キャッシュレスには

対応していないし、今後も対応する予定もない。しかし、今世間では確実にキャッシュレス化が進んでおり、近い将来、ほぼ確実に現金決済が減り、現金自体を持たなくなる時代が来るように思えてならない。そうなった時、お寺はどのように対処するべきだろうか。

という事実は先日、自坊のご門徒と笑いながら話をしてきた。

話は戻るが、携帯で気軽にインターネットができるようになっていったのは、恐らくNTT docomoの「i-mode」が誕生した1999年以降だろう。現在はそれから20年。次の20年はどのような未来になるのだろうか。

お寺で「ペイペイ♪」という決済音が鳴る日がこない事を願いながらも、ラーメン店で「ペイペイ♪」と決済している自分自身に矛盾を感じている今日この頃である。

教区の情報をおあなたに あなたの声を教区に!!

一緒にネットワーク9を作りませんか?

編集員募集中!!

Network 9

東京教区教化委員会報 ネットワークナイン

取材、原稿執筆、校正、デザインなど、紙面作りに関するすべてを行います。お寺の新聞やチラシを作る時のスキルも学べるかもしれません。パソコン初心者の方でも大歓迎です。先輩編集員が丁寧にご指導します。一緒に楽しいネットワーク9を作っていきましょう。興味がある方、お問合せは東京教務所（担当：佐々木）まで

ネットワーク9へのご意見・ご感想をお寄せください
〒177-0032 東京都練馬区谷原1-3-7 東本願寺真宗会館内 東京教務所
【電話】(03)5393-0810 【ファックス】(03)5393-0814
【mail】nw9@ji-n.net



スマホやパソコンでぜひアクセスを! 東京教区のホームページ

暮らしに
じいーん



www.ji-n.net

検索 暮らしにじいーん

お寺をもっと身近に

多彩なコンテンツ

- じいーん散歩 **New**
- しんらんさまめぐり
- 法話/行事・講座
- なるほど仏事作法
- 寺院検索
- 他

うちのお寺も載しなよ!



スタッフ募集

パソコン技術は不要です

ホームページ班のメンバーは僧侶に限らず、月に約1回のペースで集い、アイデアを出し合ったり、時には現地取材もしています。ぜひ一緒に活動しませんか? (お問合せは教務所/不動まで)

11月敬弔

池田美枝子 様

長野1組 信行寺 前坊守
11月8日命終 89歳

和田祐智 様

三浦組 來福寺 前住職
11月17日命終 86歳

柳了眞 様

埼玉組 一心寺 住職
11月22日命終 75歳

生前のご功労を偲び、
念仏合掌して哀悼の意を表します。

涌ゆう

編集員の随筆



この時期になると、交流のある寺院の報恩講に出仕させて頂いております。それぞれの寺院でご法話を頂いたり、お斎などの際に門徒の方から様々なお話を伺ったりしています。今年もそのような機会に恵まれ、その中で思う事がありました。

「当り前だろう」とは思われるでしょうが「教えは直接人から聞いてみないと分からない」という事です。ご法話をされた講師の方の中には、教鞭を執っていて多数の著作がある方もいらつしやいました。実際にそれらを読みましたが、経典や仏教用語について緻密に説明されており、不勉強な私には、何度も読み返してやっと理解するような内容でした。しかし実際にご法話を伺うと、本で読んだ時の印象とは異なり、ジョークを交えながら経典の内容や仏教用語を分かりやすくお話し下さったので、より理解が深まったように思います。

また、門徒の方とお話をした際には、ご自身のお寺で行っている同朋の会などの集まりに愛着があり、お寺に行く事が習慣になっている事、毎年の報恩講の準備が楽しみである事などを伺い、昨今言われる「寺離れ」に対して、希望が持てるような印象を受けました。ご法話をされた先生方や門徒の方々は、それぞれ話し方や表現が違っていても、教えやご自身のお寺の現状などに関して、分かりやすくお話し下さいました。自身を鑑みると、普段はそれらについて分かったつもりでいましたが、その考えが浅はかであったと感じました。

蓮如上人が書かれた『御俗姓御文』において、報恩講を行う意義として、教えを聴聞して互いに確かめ合う事が記されていますが、改めてその意味を考えさせられました。

(東京3組 教元寺 平松 正宣)